

学校教育目標	
(い)生き生きと活動する子 (ち)地域の中で育つ子 (が)頑張りぬく子 (お)お互いを思いやる子 ○【い】進んで学び、問題解決に向け、自分の考えを豊かに表現できる子、最後までやり抜く子を育てます。(知) ○【ち】まちとの関わりを大切にし、地域や社会のために自ら実践する子を育てます。(公) ○【が】規則正しい生活を心がけ、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体) ○【お】挨拶、感謝、思いやりを意識し、自他を大切にできる子を育てます。(徳) ○【い】人とのコミュニケーションを通して、広い視野で人と共に生きていく子を育てます。(開)	
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
＜問題発見・解決能力※学習の基盤となる資質・能力＞ ＜コミュニケーション力(自分づくりに関する力) ※現代的な諸問題に対応して求められる資質・能力＞	具体化した資質・能力
	＜問題発見・解決能力＞→「考える力・選ぶ力・解決する力」 ＜コミュニケーション力＞→「伝える力・聴く力・協働する力」 ※＜現代的な諸問題に対応して求められる資質・能力＞ 主体性(自分ごととして取り組む)、協働性・多様性尊重(他者と共に学ぶ) 自己調整・自己理解(自分をコントロールする)
中期取組目標	
○児童一人ひとりを大切にして、学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し、自信をもって行動する子を育てます。 ・1年目は学習の楽しさを実感できる工夫した授業づくり(※質の高い学びと働き方改革の両立)を推進します。 ・2年目は児童の主体性を大切に(※協働的な学びの実現)しながら、学力の向上を目指します。 ・3年目は自分のめあてに沿った一人ひとりに合った学び方(※個別最適な学びの実現)で前向きに学習に取り組めることを目指します。 ○校内、校外の人とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、人を思う心やまちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活を送れるようにします。 ・良好な人間関係を築けるような機会や、楽しみながら体を動かす機会を増やし、健康な心身の育成に努めます。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導 授業改善 個に応じた指導	①学状等のデータを活用して児童の実態を把握し、学ぶ楽しさが実感でき、全員が「分かる」授業づくりを行う。 ②育成を目指す資質・能力を明確にした授業研究等を行い、児童が主体的に学習に取り組む授業を目指す。 ③ICT機器を活用するなど、様々な学習形態を取り入れ、児童一人ひとりに合った方法で授業に参加できるよう工夫する。
担当	重点研推進・評価(学状)

学力向上に関わる本校の状況


今年度の目標	
課題解決的な学習活動の充実と対話的な学びに重点を置き、家庭・地域と連携を図りながら、児童の学習意欲の向上と主体的に問題解決する力、協働して学びを深める力の育成を目指す。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	(低学年)児童が自分の思いを持てるような学びの実現を目指す。例えば ○生活の中から見つけた課題を、体験を通して解決する経験を積めるようにする。 ○友達のことを聞いて自分の考えを持つことができるような場面を意図的に設定する。 (中学年)自分の考えを他者と比べ合い、理解し合いながら深める力を育てる学びの実現を目指す。例えば ○友達と意見を交流をする時に、お互いの意見や考えを尊重しあえる態度を育てる。 ○意図的なグルーピングでの話し合い活動を設定したり、自分の学びを自己調整するための振り返りを適宜設定したりする。 (高学年)課題に対するよりよい解決を探る力を育てる学びの実現を目指す。例えば ○既習事項をふり返ることで解決に向けた選択肢を提示して見直しをもてるようにしたり、根拠を言葉にする活動を重視したりする。 ○児童一人ひとりが根拠を明らかにして自己の考えをもち、友達の考えと比較しながら学びを深める対話的な活動の充実を図る。 (個別)自立活動を通して自己理解を深め、自らの課題の解決に向けて行動しようとする態度を育てる学びの実現を目指す。例えば ○自立活動を通して自己理解を深め、課題解決方法の選択・決定の経験を積み重ねる。 ○自己の課題を解決させるために、適切な援助要請の仕方を学ぶ。
下半期	(低学年)児童が自分の思いを持てるような学びの実現を目指す。例えば ○自分の経験を手掛かりにして、話す聞く経験を積めるようにする。 ○既習の内容を活用して、自分の考えをもつことができるようにする。 (中学年)自分の考えを他者と比べ合い、理解し合いながら深める力を育てる学びの実現を目指す。例えば ○友達と意見を交流をする時に、自分の思いを一方向的に伝えるだけでなく、相手の思いも受け入れることで考えを広げる。 ○意図的なグルーピングでの話し合い活動を設定したり、自分の学びを自己調整するための振り返りを適宜設定したりする。 (高学年)課題に対するよりよい解決を探る力を育てる学びの実現を目指す。例えば ○既習事項をふり返ることで解決に向けた選択肢を提示して見直しをもてるようにしたり、根拠を言葉にする活動を重視したりする。 ○児童一人ひとりが根拠を明らかにして自己の考えをもち、友達の考えと比較しながら学びを深める対話的な活動の充実を図る。 (個別)自立活動を通して自己理解を深め、自らの課題の解決に向けて行動しようとする態度を育てる学びの実現を目指す。例えば ○自立活動を通して自己理解を深め、課題解決方法の選択・決定の経験を積み重ねる。 ○自己の課題を解決させるために、適切な援助要請の仕方を学ぶ。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳・人権教育	①校内で授業づくり研修を行い、道徳の時間等の充実を図ることにより、児童一人ひとりの道徳的実践力を育み、その習慣化を図る。 ②だれもが安心して学校生活を送れるよう、児童の実態や課題に合わせて道徳の時間との総合化を図る。
担当	特別支援・道徳、人権

豊かな心に関わる本校の状況
○「みんなの広場」での異学年の交流において、高学年児童のリーダーシップの力を育成できた。 ○生活科や総合的な学習の時間において、コロナ禍ではできなかった体験的な学習や人との交流の機会を多くもつことができ、児童が様々な見方・考え方に触れて視野を広げることができた。この体験的な学習を道徳教育と関連付けていくことについて、計画的に実施していくことが課題。 ○YPAアセスメントを複数回実施し、個々の成長や課題・学級風土について分析することで、自尊感情を高める支援の手立てを検討することができた。支援検討会の充実が課題。 ○情報共有のツールとして「ほうこくポスト」を設置し、タイムリーな児童理解に努めた。記録内容の充実が課題。 ○特別支援教育に関して、通級指導教室と連携し、配慮の必要な児童について共有したり、教材やタブレットでの支援ツールなどを研修で学んだりすることで、個々の児童へのよりの確な支援・配慮を検討することができた。 ○人権教育について、ユニセフ募金や人権週間の標語作りなどを通して、児童が自他を大切にすることについて気づき、学ぶことができた。「人権」について、児童の発達段階に応じた教材の提供や取り組みが課題。

今年度の目標	
○豊かな体験との関連を図った道徳教育の充実を目指す。 ○自尊感情を育て、自他共に大切にする心を育む。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	道徳教育を核とした年間指導計画の作成 「みんなの広場」における異学年児童交流の充実 YPAアセスメントを生かした自他を大切にする学級風土の醸成 生活科や総合的な学習の時間における豊かな体験を通した学習の実施 子どもの背景を基とした教職員の児童理解 通級指導教室との情報交換・連携
下半期	道徳教育を核とした年間指導計画の作成・見直し 「みんなの広場」における異学年児童交流の充実 人権週間における子どもの自尊感情の育成・教職員の研修 YPAアセスメントを生かした自他を大切にする学級風土の醸成 生活科や総合的な学習の時間における豊かな体験を通した学習の実施 子どもの背景を基とした教職員の児童理解 通級指導教室との情報交換・連携

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①委員会活動や体育(保健)、学級活動を中心に、児童が自らの健康や生活習慣に対して課題意識をもち、改善につなげられるような取組みを行う。 ②体育の学習を中心に、自らの課題を理解し、運動を通して課題を解決できる指導の工夫を行う。 ③安全指導計画を踏まえて、児童が自分の命は自分で守ることを目標とし、様々な場面を想定した訓練を計画する。
担当	体育部・食育・養護・安全

健やかな体に関わる本校の状況
本校児童の体格については、学年差・個人差はあるものの、男子は概ね標準的な傾向が見られる。一方、女子については、特に高学年においてやせ型傾向が見られる児童が多く、発育状況を継続的に把握していく必要がある。 体力・運動能力の面では、学年差や男女差はあるものの、全体として共通した課題が見られる。体力テストの結果から、長座体前屈、20mシャトルラン、立ち幅跳びについては、複数学年において十分な伸びが見られない状況が続いている。柔軟性、全身持久力、下肢筋力といった基礎的な体力要素に関して課題があり、学年が上がるにつれて体力差が大きくなる傾向もうかがわれる。 生活習慣に目を向けると、高学年になるにつれて生活時間の多様化に伴い、睡眠時間が短くなる傾向が見られる。また、視力に関しては、裸眼視力1.0未満の児童が比較的多く、生活時間やメディアの利用状況との関連について継続的に確認していく必要がある。 安全面については、避難訓練等において、指示を理解し行動しようとする姿が定着している。一方で、想定外の時間帯や場所、状況の変化が伴う場面では戸惑いが見られることもあり、様々な状況を想定した訓練の必要性が認められる。

今年度の目標	
【健康】体を動かすことの大切さを理解し、自分の体や生活習慣を振り返りながら、健康づくりに主体的に関わりようとする態度を育てる。 【安全】年間を通して安全指導計画を計画的に実施することで、児童が様々な状況を想定し、自ら命を守る行動がとれるようにする。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	【健康領域】 健康診断や体力テストを通して、自分の体の発育状況や体力の特徴に気づき、体を動かすことや生活習慣と健康との関係について考える機会を設ける。 体育科の学習や運動会、学校保健委員会等の活動を通して、体を動かす楽しさを実感するとともに、感じたことや気づきを友達と共有する場を設定し、健康づくりに関する意識を高める。 また、委員会活動や給食指導を通して、日常生活を振り返り、健康について考える視点を育てる。 【安全領域】 総合防災訓練や引き取り訓練、避難訓練を通して、災害時に命を守る行動について理解を深める。訓練後には振り返りを行い、状況に応じた判断や行動の大切さを確認する。 登下校安全指導を通して、通学路における危険箇所を確認し、安全な通行に関する意識を高める。 体育科の学習における安全指導を通して、日常生活に潜む危険に気づき、安全に行動しようとする意識を育てる。
下半期	【健康領域】 長縄集会や球技交流会、体育科の学習を通して、継続して体を動かす活動に取り組み、体力づくりへの意識を高める。 学校保健委員会や委員会活動では、健康に関するテーマについて意見を出し合う場を設け、自分の体や生活習慣について考え、友達と共有する力を育てる。 また、給食指導を通して、食事と健康との関わりについて理解を深め、日常生活を振り返る機会とする。 【安全領域】 避難訓練を通して、災害時における行動や判断について再確認し、状況に応じて落ち着いて行動しようとする意識を高める。 交通安全教室を通して、歩行者及び自転車の利用者として必要な技能や知識を習得するとともに、道路における危険を予測し、これを回避して安全につこうとする意識を高める。 体育科の学習では、安全面に配慮した指導を継続し、活動の特性を踏まえて自ら危険を回避しようとする態度を育てる。